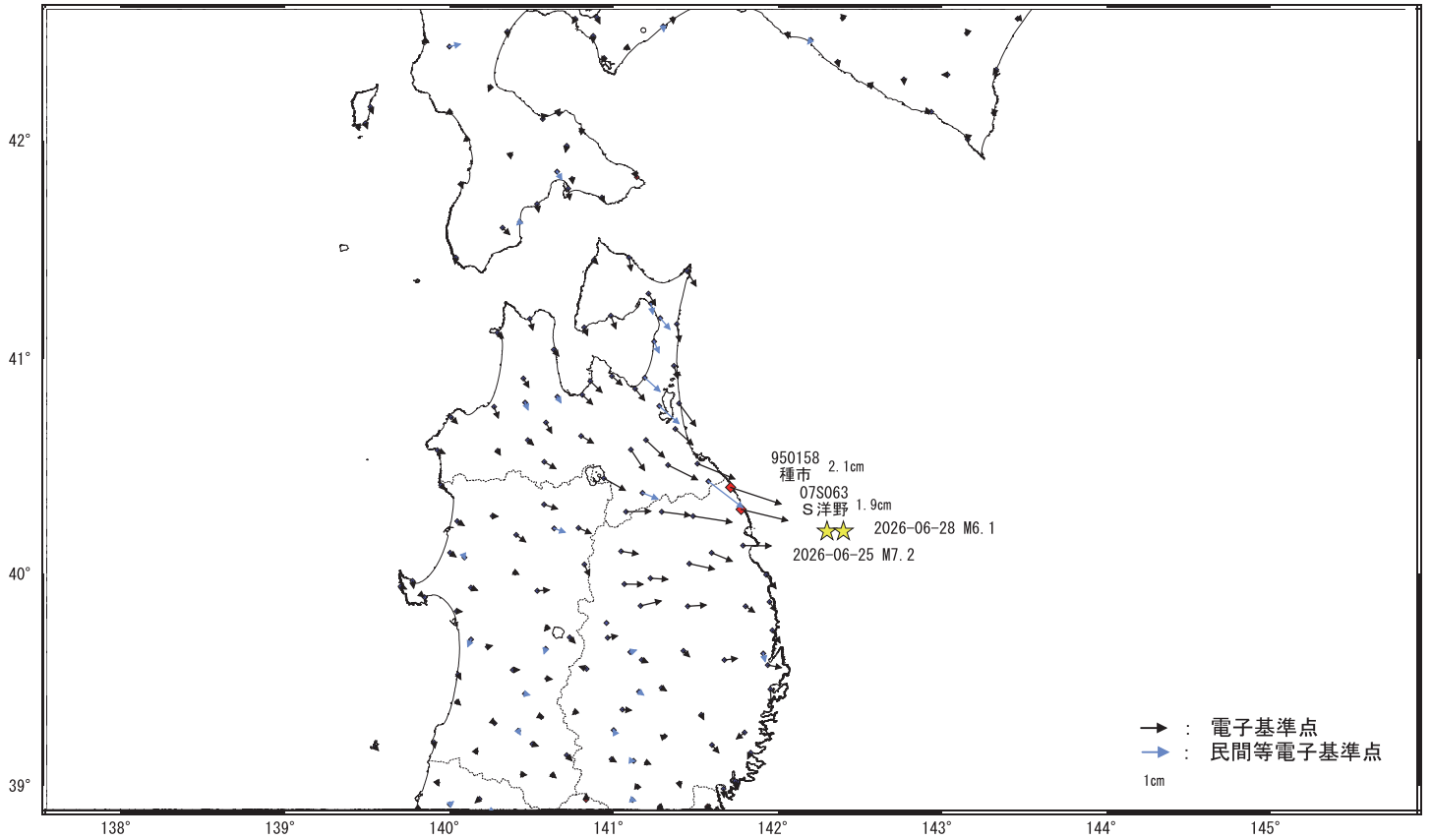


岩手県沖の地震(6月25日 M7.2) 前後の観測データ(暫定)

この地震に伴い地殻変動が観測された。

地殻変動(水平)

基準期間: 2026-06-22~2026-06-23 [R5.1:速報解]
比較期間: 2026-06-26~2026-06-27 [R5.1:速報解]



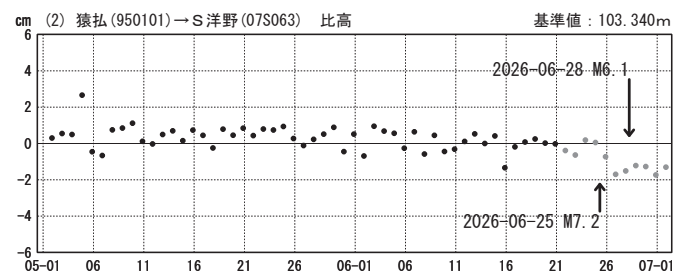
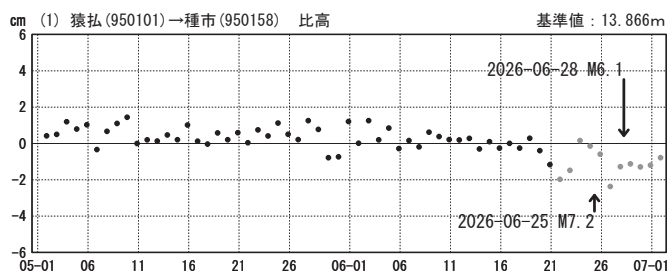
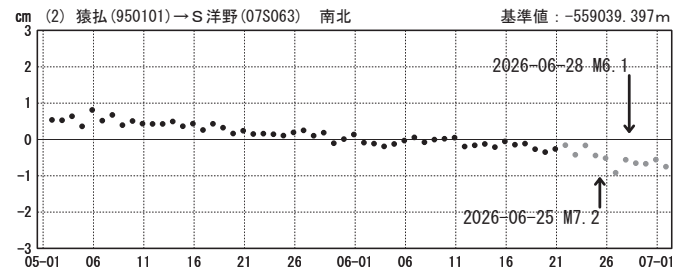
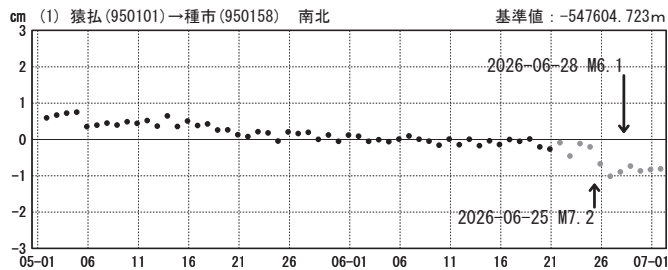
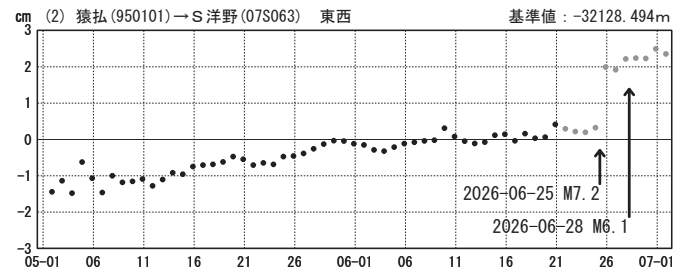
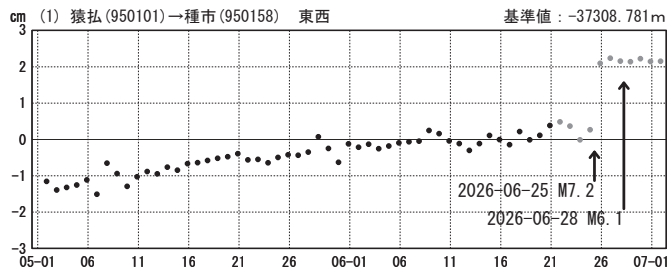
★震央 ◆観測局(グラフ表示)
☆固定局: 猿払(950101) (北海道)

※民間等電子基準点: 株式会社NTTドコモ

成分変化グラフ

期間: 2026-05-01~2026-07-01 JST

期間: 2026-05-01~2026-07-01 JST



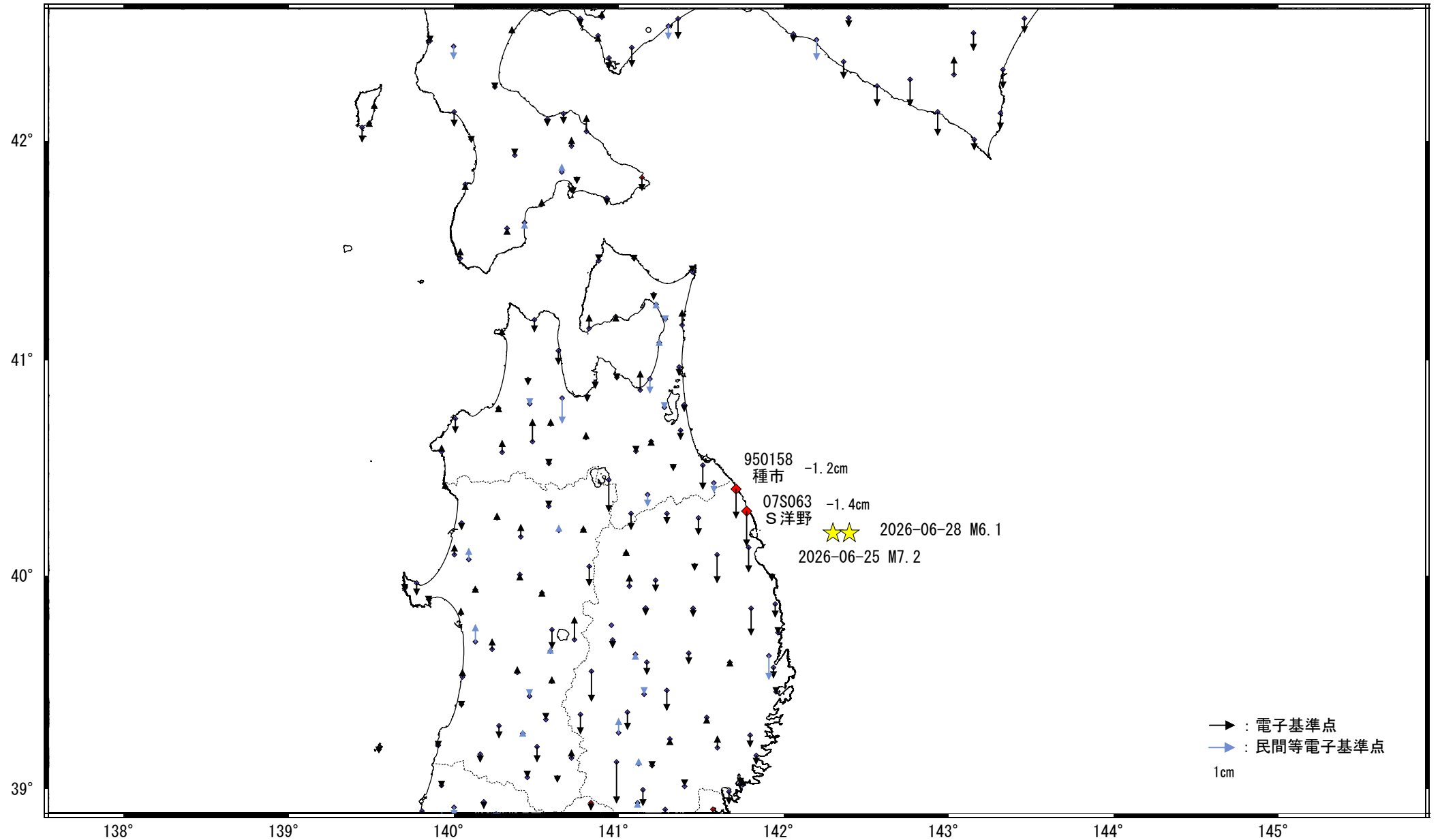
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

岩手県沖の地震(6月25日 M7.2)前後の観測データ(暫定)

地殻変動(上下)

基準期間:2026-06-22~2026-06-23[R5.1:速報解]

比較期間:2026-06-26~2026-06-27[R5.1:速報解]



★ 震央 ◆ 観測局 (グラフ表示)

☆ 固定局:猿払(950101)(北海道)

※民間等電子基準点:株式会社NTTドコモ

国土地理院

岩手県沖の地震（6月25日 M7.2）の震源断層モデル（暫定）

- ・ 基準期間：2026年6月17日 09:00—2026年6月24日 08:59 JST（速報（R5.1）解）
- ・ 比較期間：2026年6月25日 09:00—2026年6月28日 08:59 JST（速報（R5.1）解）
- ・ 固定局：猿払（950101）

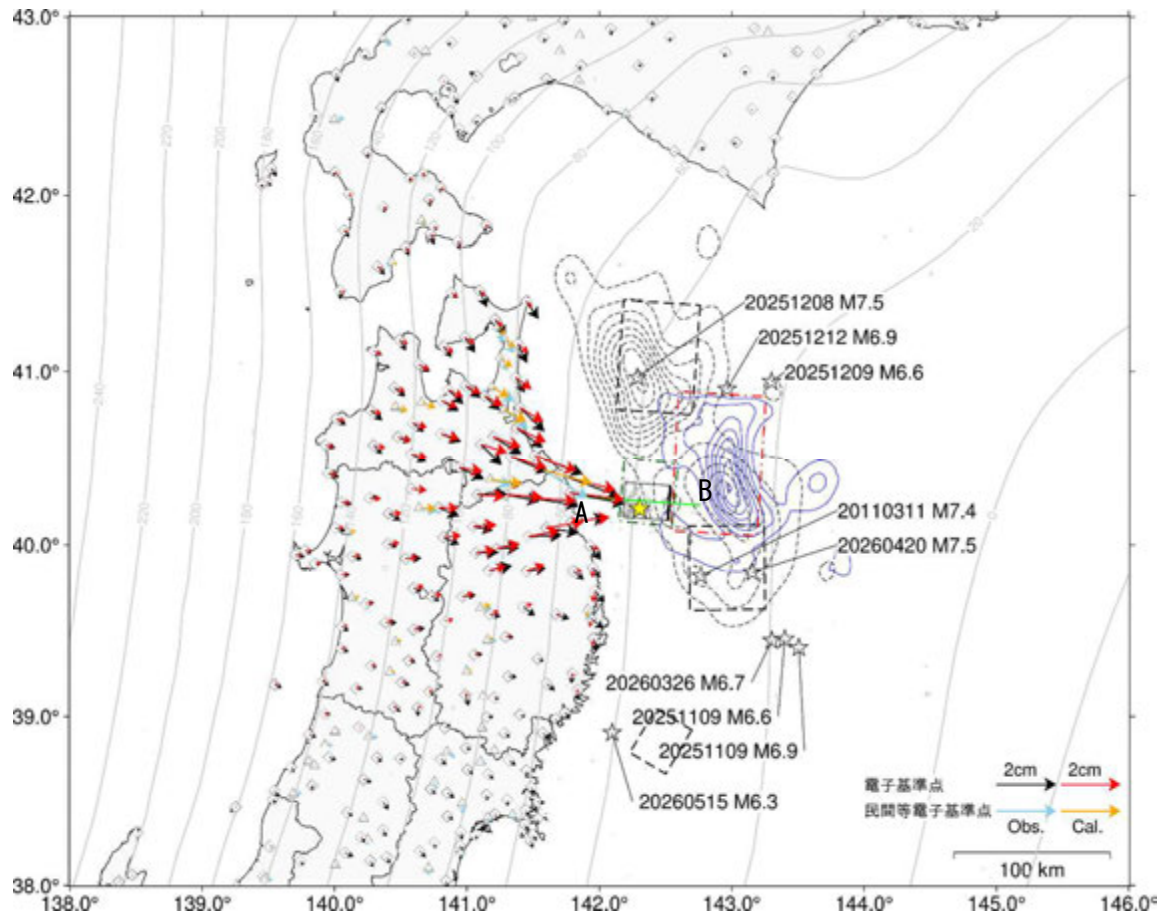


図1 推定された震源断層モデル。矩形実線は震源断層モデルを地表に投影した位置で、太い実線が断層上端。黒及び赤色の矢印はそれぞれ電子基準点の水平方向の観測値及び計算値。水色及び橙色の矢印はそれぞれ民間等電子基準点*の水平方向の観測値及び計算値。黒等値線は1968年十勝沖地震、青等値線は平成6年（1994年）三陸はるか沖地震のアスペリティ（永井・他，2001）。黒破線の四角は、令和7年12月8日に発生した青森県東方沖の地震、令和8年4月20日に発生した三陸沖の地震及び令和8年5月15日に発生した宮城県沖の地震の矩形断層モデル。赤破線の四角は、平成6年（1994年）三陸はるか沖地震の矩形断層モデル。緑破線の四角は、平成7年1月7日に発生した平成6年（1994年）三陸はるか沖地震の最大余震の矩形断層モデル。黄色の☆印は今回の地震の震央、白抜きの星印は過去の地震の震央、点は本震発生以降から6/26 23:59までに発生した震源（気象庁一元化震源を使用）。

* 民間等電子基準点：株式会社NTT ドコモ

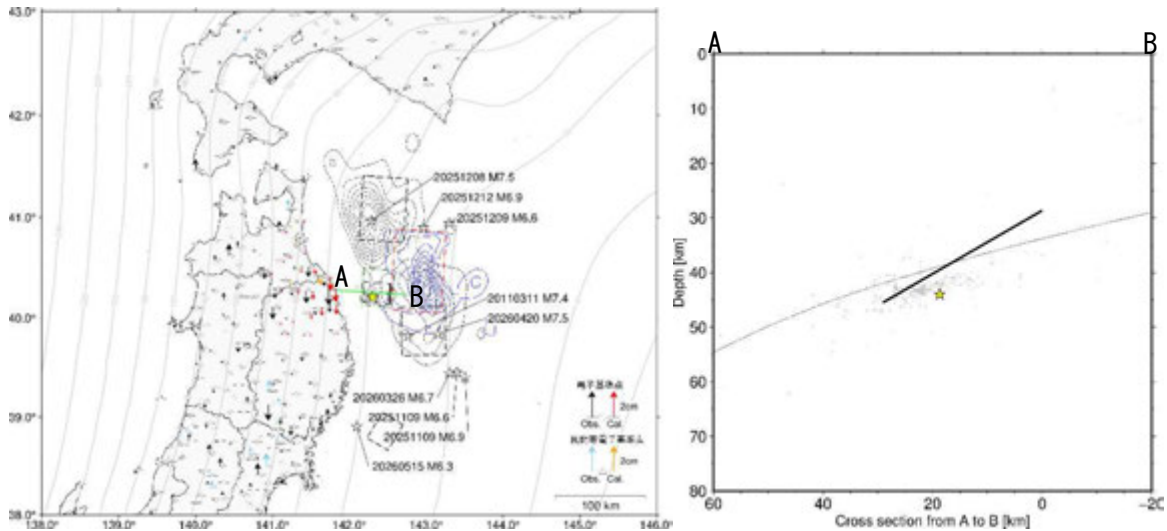
表1 推定された震源断層モデルパラメータ

緯度 [°]	経度 [°]	上端深さ [km]	長さ [km]	幅 [km]	走向 [°]	傾斜 [°]	すべり角 [°]	すべり量 [m]	M _w
40.343 (0.054)	142.537 (0.087)	28.65 (8.10)	22.3 (4.5)	33.6 (1.3)	184.2 (13.6)	30.1 (7.9)	78.5 (16.1)	0.85 (0.16)	6.87 (0.08)

- ・ VRは77.8%。
- ・ マルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法を用いてモデルパラメータを推定した。
- ・ 位置は断層の左上端を示す。括弧内は誤差（1σ）を示す。
- ・ M_wと断層長さ・断層幅の関係をスケーリング則（Strasser et al. 2010）で拘束。
- ・ M_wの計算においては、剛性率を40 GPaと仮定。

国土地理院

【参考 1】鉛直方向の変位及び断面図

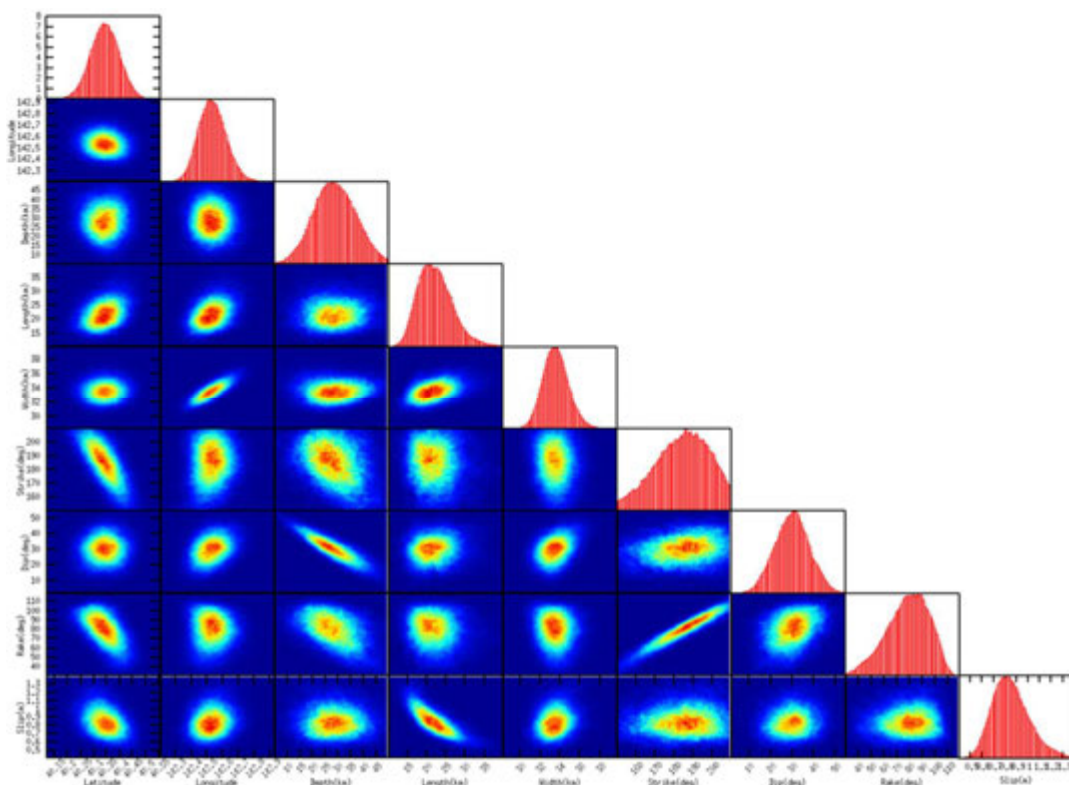


(左図) 推定された震源断層モデル。矩形実線は震源断層モデルを地表に投影した位置で、太い実線が断層上端。黒及び赤色の矢印はそれぞれ電子基準点の鉛直方向の観測値及び計算値。水色及び橙色の矢印はそれぞれ民間等電子基準点*の鉛直方向の観測値及び計算値。黒等値線は 1968 年十勝沖地震、青等値線は平成 6 年（1994 年）三陸はるか沖地震のアスペリティ（永井・他, 2001）。黒破線の四角は、令和 7 年 12 月 8 日に発生した青森県東方沖の地震、令和 8 年 4 月 20 日に発生した三陸沖の地震及び令和 8 年 5 月 15 日に発生した宮城県沖の地震の矩形断層モデル。赤破線の四角は、平成 6 年（1994 年）三陸はるか沖地震の矩形断層モデル。緑破線の四角は、平成 7 年 1 月 7 日に発生した平成 6 年（1994 年）三陸はるか沖地震の最大余震の矩形断層モデル。黄色の☆印は今回の地震の震央、白抜きの星印は過去の地震の震央、点は本震発生以降から 6/26 23:59 までに発生した震源（気象庁一元化震源を使用）。

(右図) 傾斜方向(A-B)に射影した断層面（太線）及び震源分布（薄い黒丸）。傾き下がる方向が正。破線はプレート境界面（Nakajima and Hasegawa 2006, Kita et al. 2010）。

* 民間等電子基準点：株式会社 NTT ドコモ

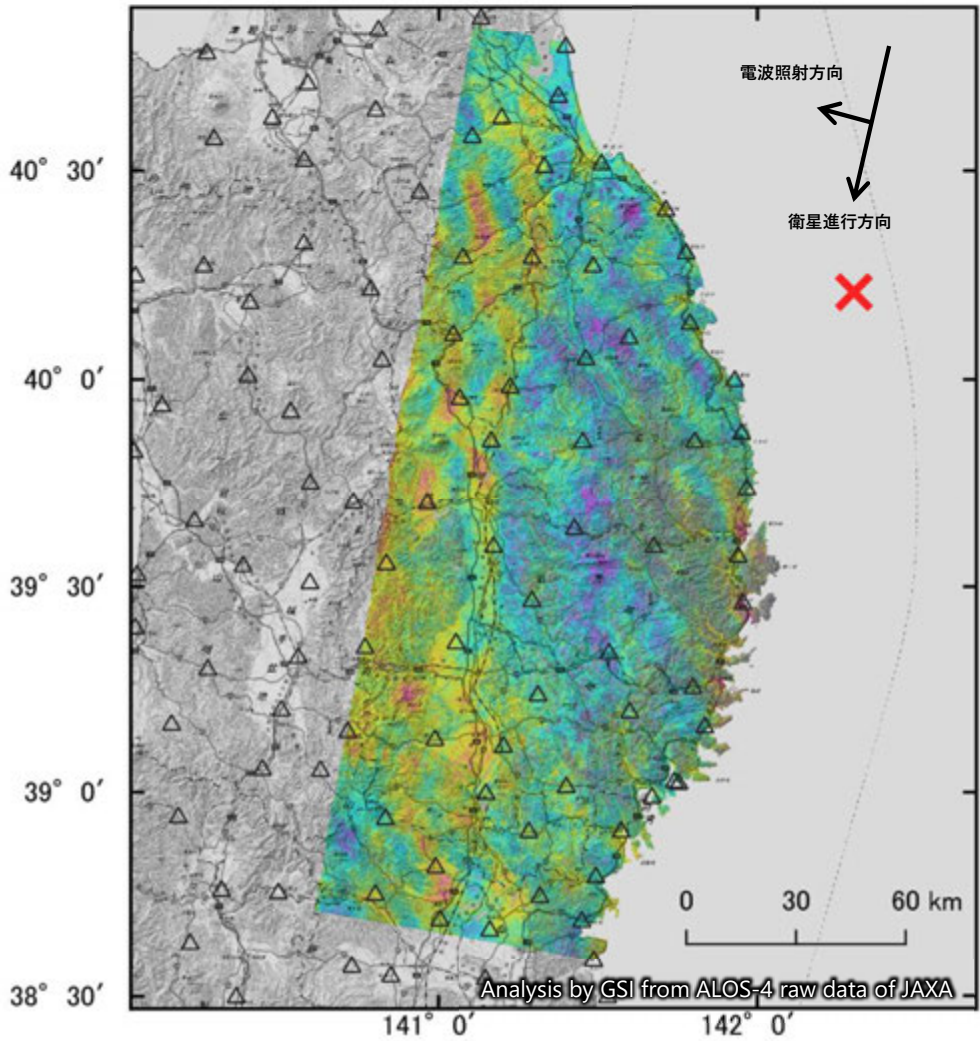
【参考 2】事後確率分布（コーナープロット）



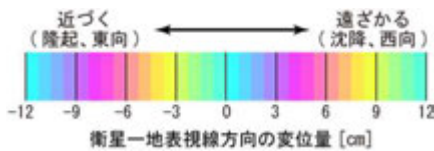
「だいち4号」観測データのSAR干渉解析による 岩手県沖の地震（2026年6月25日）に伴う地殻変動

ノイズレベルを超える変動は見られません。

2026年5月29日～2026年6月26日



△ 国土地理院GNSS観測点
× 震央 2026-06-25 07:30
深さ44km M7.2（気象庁発表）



1回目観測日	2026-05-29 (だいち4号)
2回目観測日	2026-06-26 (だいち4号)
観測時刻	11:41頃
取得間隔	28日間
衛星進行方向	南行
電波照射方向	右(西)
観測モード*	U-U
入射角	34.6°
偏波	HH
垂直基線長	+ 272 m

* U：高分解能(3m)モード

背景：地理院地図 標準地図・陰影起伏図・傾斜量図

本解析で使ったデータは、JAXAとの協定及び地震活動SAR解析ワーキンググループの活動を通して得られたものです。
対流圏遅延補正には、気象庁数値予報格子点データを使用しています。